

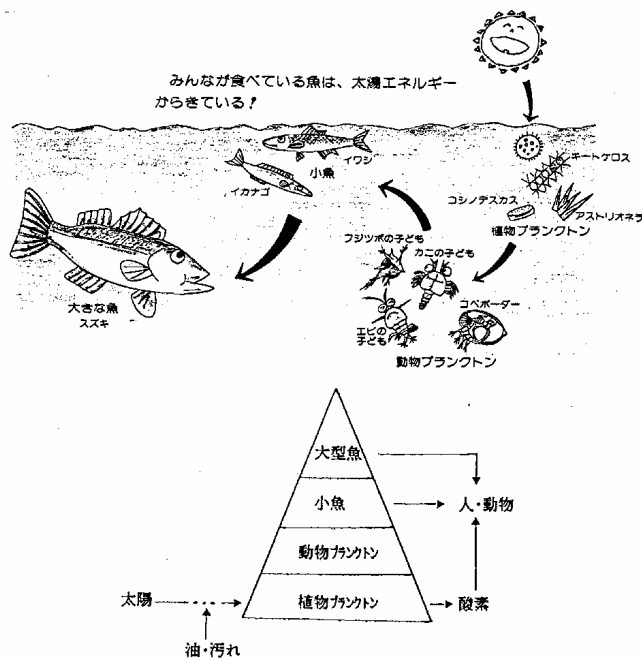
アマモ場が自然環境と漁業へ与える影響

- アマモが ” 海のゆりかご ” といわれる理由は？ -

岡山旭川ロータリークラブ
岡山科学技術専門学校生物工学科
NPO法人 エコギア

講師 福田富男

1、環境と食物連鎖



2、藻場の一般的効用

藻場の構造

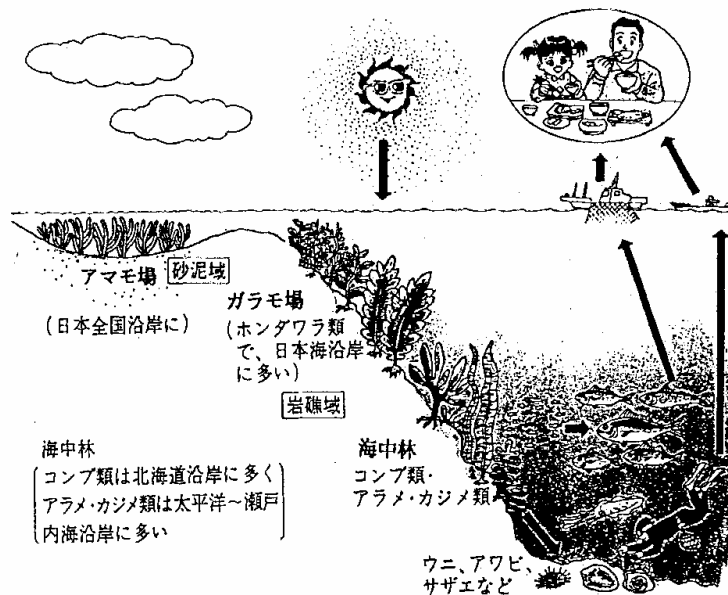


図 1 藻場の種類と人間との関わり (奇勝1991)

アマモ場

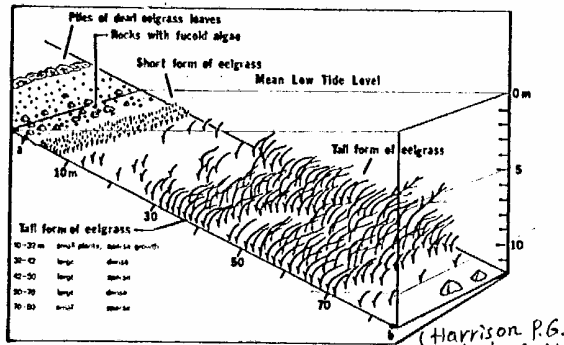
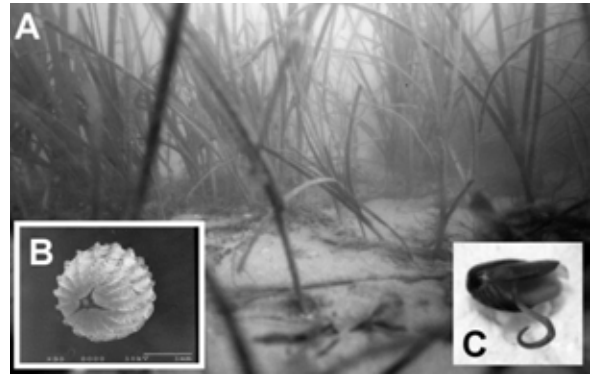


FIG. 6 Distribution with depth of tall and short forms of *Zostera marina* on Transect a-b. Distance along transect and depth are on different scales.



- ・構成種
- ・アマモ、コアマモ

ガラモ場

- ・構成種
- ・ホンドワラ、アカモク、マメタワラ、ヨレモク、ウミトラノオなどを始め食用とするひじきなども含めた、いわゆるホンダワラ科の藻類

アラム・カジメ場

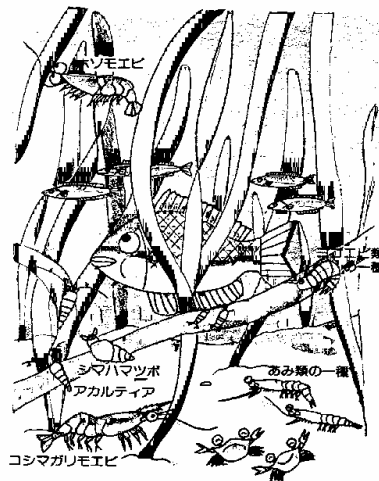
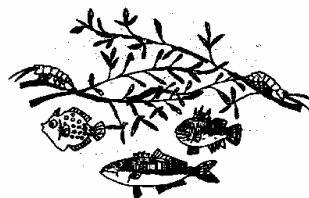
- ・一般的には海中林（広い意味では、ガラモ場、アマモ場も海中林）と呼ばれる
- ・アラム、カジメ、クロメ、コンブなどを主体に形成される
- ・植物自体食用となる
- ・ウニ、アワビ、サザエなどの生産に役立つ

藻場の一般的な効用

海そうの林

海の中の森(海中林)では、魚が卵をうみ、小魚やいろいろな海の生物の子供が大きくなる大切な場所です。

なが流れ藻



- ・アマモ場、ガラモ場、アラム・カジメ場
- ・陸上における森林の様に酸素を補給するなど生態系の保全に役立つ
- ・波などを消して濁りを押さえ、沿岸の保全に役立つ
- ・流れ藻として仔稚魚の育成場となる

3、アマモ場の漁業生産における意義

- ・水産上重要種の稚魚（～成魚）の生息場や餌場となる
- ・スズキ、メバル、クロダイ、ウミタナゴ、サヨリ、クロソイ、タケノコメバル、アイナメ、クジメ、マダイ、キス、イシガレイ、イサキ、マアジ、アイゴ、シマイサキなど
- ・産卵場となる：サヨリなど
- ・流れ藻となり稚魚を育てる：メバル、タケノコメバル、クジメ、ウマヅラハギ、イシダイなど
- ・貝類の生息場となる：モガイ、アズマニシキなど
- ・環境の保全：静穏、濁りの除去
- ・栄養塩類の調節
- ・季節的に繁茂と枯死を繰り返しエネルギーを固定し貯金となる：人工藻との最大の違い
- ・消滅しても多毛類などの底生生物が生息し、漁業生産を支える

4、今後の問題

保護と造成が必要

- ・消滅が目立つ
 - ：埋め立て
 - ：水質自体の悪化
 - ：汚濁による透明度の減少
 - ：台風などの自然災害
 - ：漁業によるもの
 - ：回復や逆に拡大した例も報告されている
 - ：Wasting Disease（原因は現在も不明、菌類を病原とするアマモの病気、水温の変化、アマモ自体のバイオリズムなどとも言われている、1930年頃に世界的に大流行、1960年頃まで長期間に渡って継続した。現在でも南日本で進行中とも言われる）
- ・官公庁や一般市民などが協力して保護育成が必要とされる
 - ：アマモ播種キットなどによる運動など



図 1



図 2



図 3

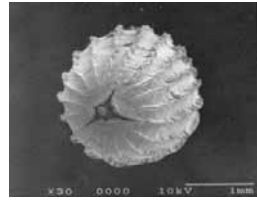


図 4

アマモ育苗キット



生分解性容器



砂



人工海水のもと



アマモ種子

図 5



図 6



図 7



図 8

海そうの林

海の中の森(海中林)では、魚が卵をうみ、小魚やいろんな海の生物の子供が大きくなる大切な場所です。

流れ藻



図 10



図 11

図 9